

# 第2世代抵抗性クロマツの マツノザイセンチュウ接種検定をしています

接種日：令和6年7月25日（木）

場所：香川県森林センター 苗畑

「松くい虫被害」と言われる、マツが枯れる病気（マツ材線虫病）に強い抵抗性を持つアカマツ・クロマツ品種の選抜が、昭和50年代から実施されてきました。近年は、より強い抵抗性を持つと期待される第2世代抵抗性品種の開発が進められています。

香川県森林センターの採種園では、令和4年から第2世代抵抗性クロマツの種子が採取できるようになったため、苗畑に播種して苗木に育て、他の林業試験研究機関との共同研究としてマツノザイセンチュウ接種検定を実施しています。



① マツノマダラカミキリの成虫が羽化脱出する時期に接種します。



② 3年間育てた検定用の苗木は1m近くも成長しました。



③ 小刀で5cmくらいの切り込みを入れます。



④ もう片方の鋸刃で傷の表面を毛羽立たせ、木部を露出させることで線虫が中に入りやすくなります。



⑤ 食紅で色をつけたマツノザイセンチュウの懸濁液です。



⑥ ピペットで懸濁液を0.05ml吸い上げます。



⑦ 1本あたり1万頭のマツノザイセンチュウを接種します。



⑧ 赤く色づくので、接種済みの苗木の確認が容易です。



⑨ 容器を天地返しして、毎回沈んだ線虫を分散させます。



⑩ 傷口がヤニでふさがる前に接種しなければならないため、2人1組で行います。



⑪ 接種から46日経った様子です。残念ながら、一部に変色や枯れが見受けられました。

12月には、生存率等を調査・算出する予定です。

結果は国の機関でとりまとめられ、抵抗性品種の開発に役立てられます。

（香川県森林センター 林業普及指導員）